

NPO法人 リヴォルヴ学校教育研究所

(設立2001年 つくば市)

小野村 哲 理事長



事業概要

当所では、①不登校児童生徒のための学校「ライズ学園」の運営 ②教職員向けのセミナー・ワークショップの企画運営 ③学校と地域をインターネットでつなぐ「いばらきマナビィ・ネット」の運営を行っています。

①ライズ学園

ライズ学園では、国語や算数といった科目学習のほか、スポーツ・アート・調理など体験的学習の機会を提供しています。現在、市内外の小学生から高校生まで、1日平均10名程度の子どもたちが通園しており、自らのペースにあわせた時間割で学習しているところです。学校や教育委員会の協力により、通園は学校の出席として取り扱われています。

現在の学校制度は、大勢に対して効率的に授業をするには優れたものではありませんが、子どもたちの多様性の発現を制限してしまう面があることは否定できないところでしょう。また、その改善・改革をお役所まかせにするのもおかしな話です。ライズ学園の試みは、「子どもたちの教育を他人まかせにしない」との認識を出発点にしています。

既存の学校制度を補完するものとして、民間レベルからの教育改革の提案として、そして何より子どもたちの選択肢の一つとして、ライズ学園は運営されているのです。

②セミナー・ワークショップの企画・運営

現職の教師や教職希望者を対象に、セミナー・ワークショップの企画・運営を行っています。2年間で約1,000人の方が参加されており、各分野の専門家を招いた講座や、実際の教育現場で起きている問題を討論するワークショップに対する需要の高さが窺われます。教育委員会等が行う命令研修を否定するつもりはありません。しかし、もっと多様な研修機会が与えられても良いと私達は考えます。

そこで私達は教職員研修のパウチャー制を提唱しています。これは、先生方に研修会参加に際して利用できるパウチャー（クーポン券）を発行し、いわゆる命令研修以外に、NPOや大学等が主催する研修会にも自らが選択して参加できるようにしようというものです。そこにより意味での競争が生まれ、より充実した研修の機会が提供されることを期待しています。

③いばらきマナビィ・ネット

「いばらきマナビィ・ネット」は、教育現場へ“地域”が参加する機会の創出を目的とした試みで、①

Web掲示板（学びのQ&A 掲示板：子どもたちの疑問に対して地域の人材が答える質疑応答掲示板）②学校と外部人材（ゲスト・ティーチャー）のコーディネートを事業の柱としています。当所は事務局としてその運営を担っており、将来的には地元企業やNPOの参加をおおぎ、地域ファンドをたち上げるなど、地域社会における経済と教育の連環を形成することを目標としています。

2004年に向けて

いばらきマナビィ・ネットの本格稼働を目指しています。この事業は、ともすれば閉鎖的にもなりかねない当所にとって、外部の団体等と接触するための窓口の役割を果たすと考えられるからです。さらに、ここでの成果をセミナー・ワークショップで発表していくなど、事業間の連携効果も期待できます。

また、ライズ学園での成果やセミナー・ワークショップでのニーズに応じて、教材開発に取り組んでいるところです。現在は、ひらがな学習教材の04年内出版を目指した作業が進行しており、こうした出版事業が今後の収入の柱なることを期待しています。

セミナー開催などで知名度があがったせいも、ライズ学園への生徒の紹介が最近増えているなど、当所の活動にも、一定の成果が見られるようになりました。

しかし、現在の当所の活動を自己採点するならば、まだ20点程度といったところでしょうか。というのも、当所の目指すところは、ライズ学園、セミナー・ワークショップ、いばらきマナビィ・ネットの三つの事業が同時に稼働し、地域教育システムとしての連環を構築することだからです。目標は高いのですが、それを実現するための人手が足りていないのも課題の一つです。当所の活動について、地域に理解を求め、協力をあおいでいくことにも力を注ぐ必要があるでしょう。



▲ライズ学園のみなさん